

国際関係学部長の新里孝一です。小泉康一先生のご経歴とご業績についてご紹介いたします。

小泉康一先生は、東京外国語大学・大学院在学中に、タイの日本大使館に勤務され、大学院修了後は、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）のタイ駐在事務所において、プログラムオフィサーとして活躍されました。

1986年から、国際関係学部のタイ語の非常勤講師を務められ、1994年4月に国際関係学部の専任教員として着任されました。以来、25年にわたって、タイ語や難民研究を中心に教鞭をとってこられました。先生の独特の物腰とお人柄で、小泉先生のゼミは、優秀な学生が集う人気の難関ゼミの一つであり、卒業論文・学部長賞の常連ゼミでした。

ご研究の面では、1998年の『「難民」とは何か?』を上梓されて以来、難民研究の第一人者として、400ページを超える難民研究の名著を次々と世に問われました。『国際強制移動の政治社会学』『国際強制移動とグローバル・ガバナンス』『グローバル・イシュー：都市難民』『変貌する「難民」と崩壊する国際人道制度』等多数にのぼっています。

1990年には英国オックスフォード大学難民研究所で、2000年にはスイスのジュネーブ大学国際関係高等研究所で研究員として難民研究をリードされ、また、学外の大学院生をはじめ若手の研究者の指導と育成にも尽力されました。

タイ語の教育では、タイのチュラロンコーン大学との緊密なネットワークを通して、学生の留学支援や現地研修の円滑な運営を主導されました。

国際関係学部の学生はもとより、教職員一同、小泉先生のようなすぐれた研究者から、25年もの長きにわたって親しくご指導いただいたことを幸運に思うと同時に、たいへん誇りに思っております。

これからも、本学名誉教授として、教職員及び学生への変わらぬご指導をお願いする次第です。一層のご活躍とご健康をお祈りいたします。

以上、小泉康一先生のご紹介とさせていただきます。本日はおめでとうございます。